1つのテーマ（竹やぶ問題）を通して取組む
［本業連動型SDGs］
事業のご案内

SDGs BAMBOO PROJECT

パートナーシップで取組むSDGs

SDGｓバンブープロジェクト推進フォーラム
事務局　山村公人（一般社団法人九州循環共生協議会 理事）

プレゼン内容

SDGｓバンブー
プロジェクト推進
フォーラムについて

取組状況

パートナーシップ
事業のご提案

お伝えしたいこと

私たちの取組の軌跡と今後の課題

01

課題解決は単独でできない！パートナーシップの必要性（気づき）

サプライチェーン構築に尽力。
事務局が点と点を繋いできました。
今後の課題は需要喚起です。

02

パートナー企業の動機づけ（苦労した点）

SDGsは新しい経営課題。何が正解か？社内の反発は？ 連携する各社共有の[方針]の必要性を認識しました

03

事業方針

次頁ご参照

[SDG s 前文] に倣いました。
格段に連携し易くなりました
各社内コンセンサスも得易くなったようです。

04

本業メリット明確化

大きな設備投資や、手間のかかる業務を回避。パートナーシップの強みを発揮。本業特化で[SDGs貢献型事業]実現

05

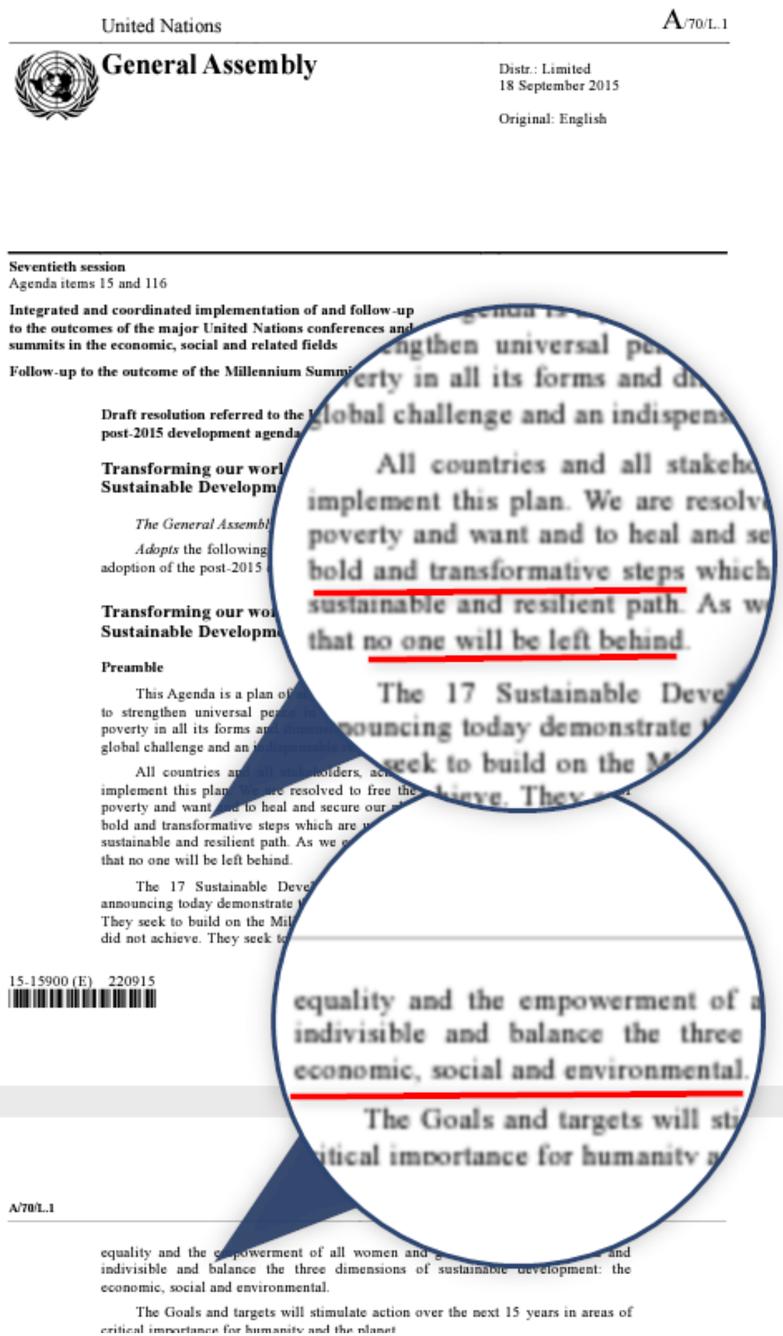
今後の課題(需要喚起)

消費の恒常化が持続可能性の要。購買側のブランディングに貢献できるか？がポイント

持続可能な開発のための2030アジェンダ[前文]より

1. **bold and transformative steps**
   大胆かつ変革的な手段
2. **no one will be left behind**
   誰一人取り残さない
3. balance the three dimensions of sustainable development:
   the economic, social and environmental.
   持続可能な開発の三側面、すなわち
   経済、社会及び環境の三側面を調和させる

SDGs の 前 文 ・ 宣 言 ・ SDGsは、2015年の国連総会で全会一致で採択された「我々の世界を変革する 持続可能な開発のための2030アジェンダ」という文書の一部です。


United Nations A/70/L.1

General Assembly

Distr.: Limited
18 September 2015

Original: English

Seventieth session
Agenda items 15 and 116

Integrated and coordinated implementation of and follow-up to the outcomes of the major United Nations conferences and summits in the economic, social and related fields

Follow-up to the outcome of the Millennium Summi

Draft resolution referred to the post-2015 development agenda

Transforming our worl Sustainable Developm

The General Assembl

Adopts the following adoption of the post-2015

Transforming our wo Sustainable Developm

Preamble

This Agenda is a plan of to strengthen universal pe poverty in all its forms an global challenge and an i

All countries an implement this plan resolved to free the poverty and want and to heal and secure our bold and transformative steps which are sustainable and resilient path. As we that no one will be left behind.

The 17 Sustainable Deve announcing today demonstrate They seek to build on the Mil did not achieve. They seek to

15-15900 (E) 220915

A/70/L.1

equality and the empowerment of all women and and indivisible and balance the three dimensions of sustainable development: the economic, social and environmental.

The Goals and targets will stimulate action over the next 15 years in areas of critical importance for humanity and the planet

ngthen universal pe
verty in all its forms and di
lobal challenge and an indispens

All countries and all stakeho
implement this plan. We are resolv
poverty and want and to heal and se
bold and transformative steps which
sustainable and resilient path. As w
that no one will be left behind.

The 17 Sustainable Deve
ouncing today demonstrate
seek to build on the M
hieve. They

equality and the empowerment of a
indivisible and balance the three
economic, social and environmental.

The Goals and targets will st
itical importance for humanity a

当プロジェクトの方針

1. 非販売(クラファンなど返礼品)でマーケティング
2. サプライチェーンに必ず障がい者の就労
3. 明確な環境/社会課題の確認、および、解決のための経済活動

活動の目的

外来種・モウソウチク
による環境/社会課題
ビジネスで解決

放置された竹やぶは拡散。拡散防止には伐る以外に手立てなし。経済的仕組みが必要

現状（Before）
環境/社会課題の放置

翌春（After）
経済を通じた環境社会課題解決

13 気候変動に具体的な対策を

6 安全な水とトイレを世界中に

8 働きがいも経済成長も

12 つくる責任つかう責任

15 陸の豊かさも守ろう

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナーシップで目標を達成しよう

消費による
課題解決

■自らの経済の目標は、生物・社会が持続可能でなければ成立しません■

SDGｓバンブープロジェクトは、生物・社会の課題解決に資する事業と事業拡大を目指しています。

【生物圏のゴール】

[#13]南方系外来種・モウソウチクが温暖化で北上することへの適応策
[#15]数か月で20M程に成長し、在来の植物・生物を消滅させる事への対応。
[#6]生物多様性の損失により水源涵養機能が低下する事への対応。

【社会圏のゴール】

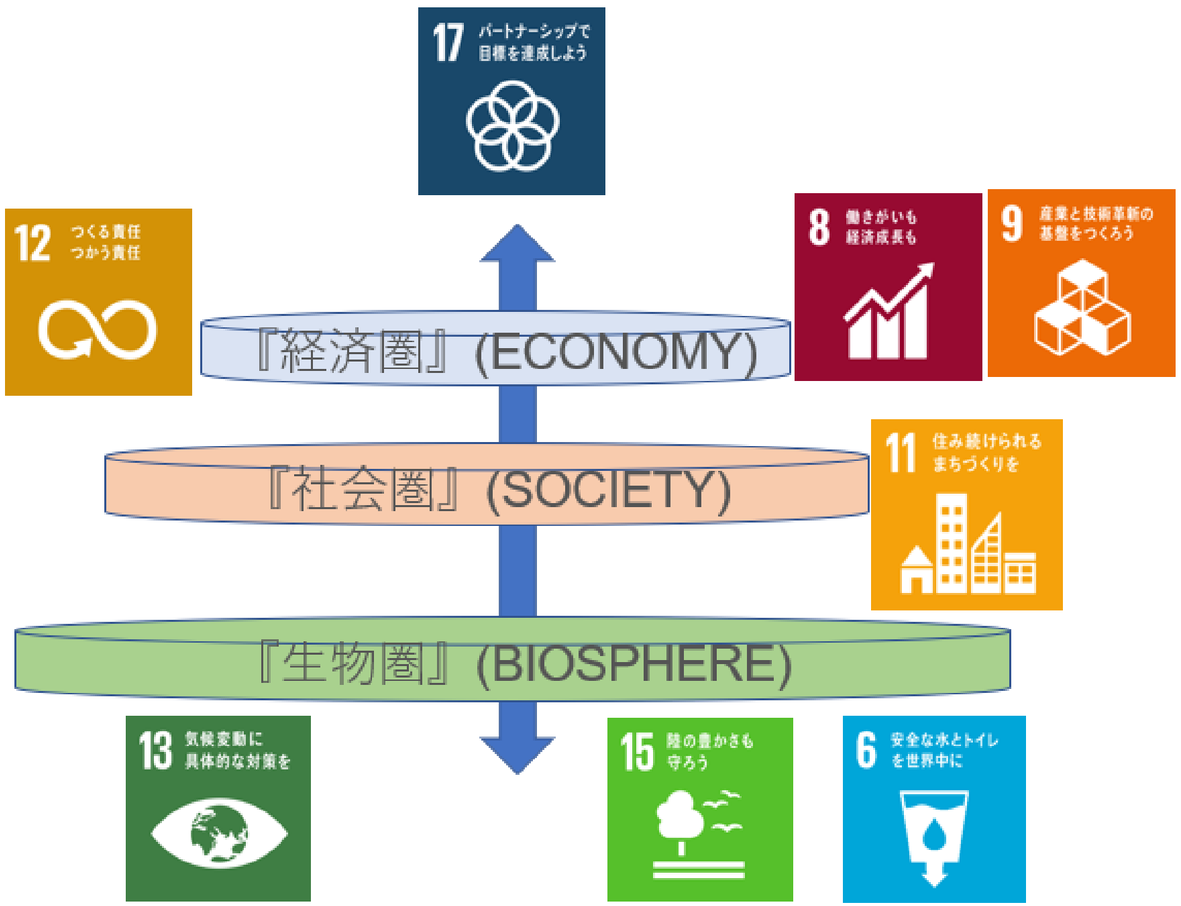
[#11]根が浅く地表から30cmの深さで集中し、豪雨時土砂崩れ招く事への対応。

【経済圏のゴール】

[#8,9] 里山地域に産業(竹の加工)と障がい者を含む就労機会を創出。
[#12]消費者と里山地域の懸け橋となる商品の開発生産する企業を募ります。

多様なステークホルダーによる協働です [#17]。
→「生産者と消費者」「里山地域と都市部住民」等

サステナブルな経済活動(8/9/12)を通じた、生物圏（6/13/15)・社会圏(11)の各Goalへの貢献



経済・環境・社会の好循環

セミナー等
SDGｓ/
里山保全
啓発活動

地域からの
要請

竹やぶ(青
竹)伐採

竹ラスク

翌春~5年間
幼竹伐採
(新芽除去)

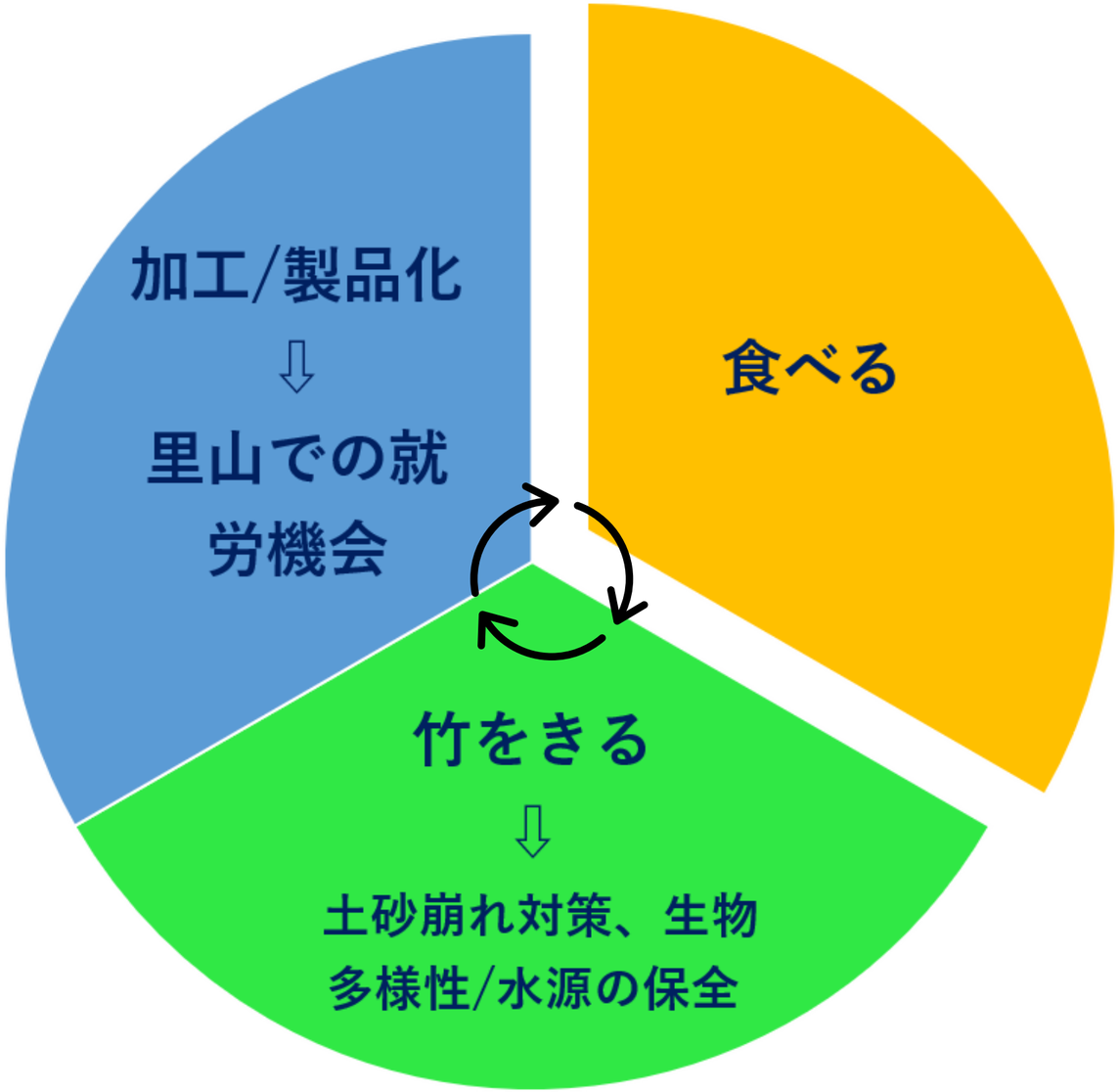
竹やぶになる前に
行う、重要な作業

落葉広葉
樹など

多様な植物
の復活

メンマ

解決手法



竹を食べて使って里山保全
SDGS BAMBOO PROJECT

- 土砂崩れ対策
- 生物多様性保全
- 水源保全
- 地域活性化

取組の軌跡

サプライチェーンの
構築

「餅は餅屋」「三方よし」の連関

メンマ

消費者　【クラファン返礼品・ギフト/ノベルティ】

↓

販売者　【飲食業、食品販売業】

↓

製造者　【地方の製造業】

↓

竹の加工　【障がい者施設など】

↓

竹の伐採　【環境保全の社団法人】

↓

①在来植物の復活、②土砂崩れリスク減、③地方の産業活性化

竹ラスク

食品製造業（竹由来食材の製品化）

目標

SDG s 貢献をPRし、共鳴する顧客を新規に獲得する。
新たな売上を確保する。　優秀な人材を確保する。

どのように？

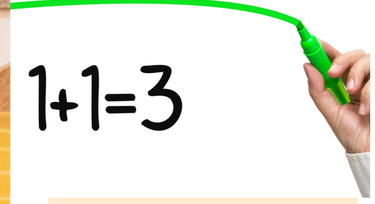
- 竹食材(メンマ/食用竹粉)を利用したレシピ開発
- 事務局と協働でSDG s 取組を広報/マーケティング

事例は？

福岡県内の食品加工事業者が、㈱豆吉郎（食品販売業）のOEMとして稼働予定。事務局よりは、OEMだけでなく独自商品開発を勧める予定。

SDGs

飲食業等（竹由来食材のご調理/販売）



	パン販売店	焼き肉店	居酒屋/料亭/ホテル/ラーメン店	食品販売店
何を	食用竹粉	食用竹粉	メンマ（塩蔵品/味付け品）	竹ラスク、味付けメンマ
どのように	小麦粉と混ぜ、食物繊維豊富なラスク	塩麹や米ぬかと混ぜる。肉に塗り冷蔵し発酵。	新メニューで販売。SDGｓを訴求	店頭、ECで販売
事例	クラウン製パン㈱	数社と調整中	丸星ラーメン（予定）	㈱豆吉郎

パートナーシップ取組み事例

株式会社豆吉郎

メンマ新製品の企画/販売

西日本新聞社グループ。「豆腐の移動販売」で西日本地域を網羅。SDGｓ観点で新商品を検討する中で、協業する運びとなり、メンマ製品企画。販売準備中。

障がい者支援センター こころ
（福心会グループ）

食用竹粉の加工作業(一部)

地元(八女市)の竹やぶ問題解決に興味あり参加。
[SDGｓ事業]を大袈裟に捉えず通常通りの受託業務として、食用竹粉の加工作業(の一部)を行う。

クラウン製パン株式会社

竹ラスクの製造ノウハウ公開

2014年地元大学と協働で竹粉を利用したラスクを開発。
今般 事務局よりの製造指導の依頼を快諾。竹やぶ被害多発する八女市内のパン店に技術指導。CSRとして広報。

パートナーシップ取組み事例

丸星ラーメン

竹食材(メンマ)開発・販売

久留米ラーメンの老舗。おかみさんは「地域の為に」を信念にボランティア[川の清掃]を数十年行うような方。食を通じたSDGｓと里山保全に共鳴。60年前に提供していたメンマの復刻版を開発。

株式会社丸信

竹ラスクのノベルティ採用

2019年度「世界ラベルコンテスト」で最高位のベスト・オブ・ザ・ベストを受賞。環境に優しい印刷に努めている。SDGｓ取組ＰＲとして営業や採用の場面で、竹ラスクの手土産を活用予定。

株式会社LikeLab

竹ラスク等の生産

複数の福祉事業を運営。
レストラン/食品販売も行う。

本事業では、食用竹粉使用の食品製造・販売を行う予定。

パートナーシップの進め方

一緒に考える

新たな経営課題・SDGｓを一緒に考えます。
「餅は餅屋」「三方よし」がキーワードです。

本業へのメリットを追求する

相互のメリットなければ続きません。メリットとは？を明確にします。慎重に考え行動します。

無理をしない

息の長い取り組みが必要です。性急な判断、大規模な投資、手間がかかる事などは避けるようにしています。

今後の課題

竹の[持続可能な開発]
の要は [恒常的な消費]

消費が要の［竹の持続可能な開発］

消費者　【クラファン返礼品・ギフト/ノベルティ】

CSR広報、採用活動時に有用

↓

販売者　【飲食業、食品販売業】

↓

製造者　【地方の製造業】

↓

竹の加工　【障がい者施設など】

↓

竹の伐採　【環境保全の社団法人】

↓

①在来植物の復活、②土砂崩れリスク減、③地方の産業活性化

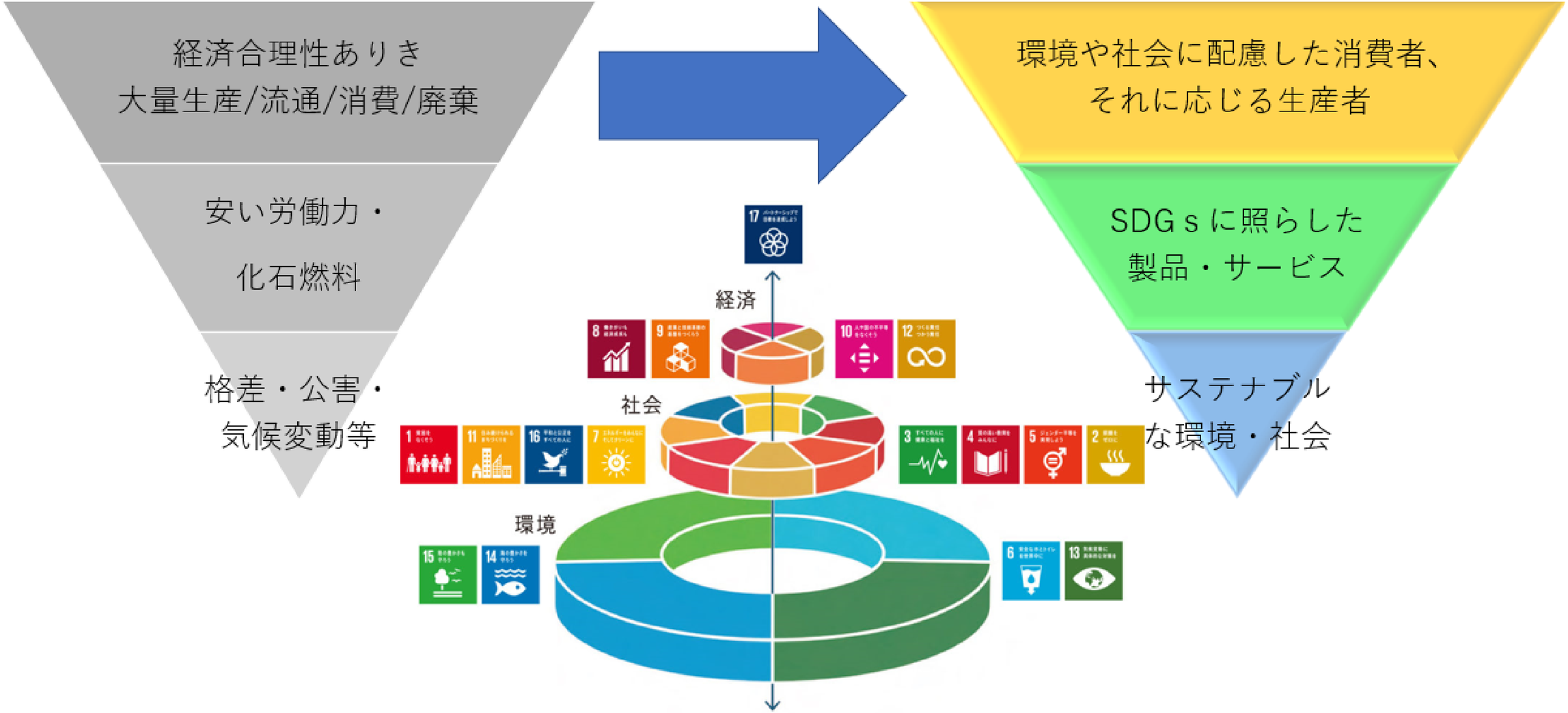
竹ラスク

メンマ

持続可能な開発のための2030アジェンダ[前文]

bold and transformative steps 大胆かつ変革的な手段

非販売「SDGｓ共鳴者への返礼品/ギフト」中心のマーケティング



「SDGsウェディングケーキ」を逆さまにした事業の必要性

[社内外への取組み姿勢PR]　＋　[参加メリット案内]

返礼品付き投げ銭サービス [KASSAI]

㈱Fintertech (大和証券グループ/クレディセゾングループ) 提供のサービス。返礼品付き寄付のプラットフォーム

KASSAI

Fintertechさんによるオンライン相談会を実施予定

誰でも簡単に投げ銭サイトを作成！

開催イベントや企画に新たな価値を！

サイト作成

①ご支援頂く企業を募集

②企業ごとのサイト作成

③社員様/お取引先様へサイト周知
④サイト毎の寄付額を集計
⑤対外的にPR(投げ銭額＝社員などの活動)

手軽に始めるSDGｓ活動のヒントに。

「簡単にしかも定量的にSDGｓ活動できるんだなあ」

「自社でも手軽に何かできる方法あるかもしれない」

ご参加企業にアンケート回収分析結果を共有

SDGs取組の分析内容(例)

- ◆ 他社(匿名)のお悩み
- ◆ 広報やマーケティング手法
- ◆ KASSAIの効果と得たヒント

地域住民実施クラファンへの支援　→　ブランディング

[竹害]を[竹財]へ！ 地域住民がクラファン実施

SDGｓや地域活性化 に興味のある消費者(ファン)との関係づくり。
返礼品に　[ご当地メンマ]　[スポンサー企業名入り トートバッグ]

「カンブリア宮殿」「ガイアの夜明け」出演
㈱ボーダレス・ジャパンが運営するクラファン

◆ 竹やぶ被害ある地域ごとにプロジェクト
　→　エリアを随時拡げていく
◆ 返礼品に「定期お届け便」
　→　恒常的な竹やぶ管理の仕組みづくり

竹ラスク等のノベルティグッズ/ギフト　→　CSR広報/人材募集時のアイテム

SNSを活用したギフトプラットフォーム

個人・企業問わず住所不明でも贈れるサービス。サービス会社のプラットフォームを利用

2023年開始予定

住所入力無しで贈れるSNSソーシャルギフト

サービス会社のITC利用で手間も軽減。
実施ツール：SNSやクラウドサービス(詳細未定)

CSR広報、採用活動時にギフト通じ取組PR

SDG s 取組について説明可能なギフト。印象に残る。

※分科会としては営業活動を行いません。

メディア掲載など　※ 事務局 = (一社)九州循環共生協議会としての記事

2022年(令和4年)1月1日（金曜日）（第3種郵便物認可）

今できることSDGs 5

放置竹林 食に生かす

久留米の社団法人 ぬか床活用などPR

昨年12月上旬、嘉麻市の宮野地区で開かれた、モウソウ竹を食品に生かすための講習会。講師を務めた食品加工会社「アプレ」（糸島市）社長の日高栄治さん(75)が、粉状の竹を混ぜた「竹ぬか床」やメンマの作り方などを説明し、住民ら約30人が耳を傾けた。

参加した松岡朝生さん(69)は「竹ぬか床で漬けた野菜はうまみが強くなり、メンマも食感がいい」と満足顔。実は、材料の竹は放置された竹林で伐採したものだ。

成長が早く、林業や山間地の防災にも悪影響を及ぼすモウソウ竹の放置は、筑後地区などでも問題になっている。里山を保全しようと2020年春、久留米市の一般社団法人・九州循環共生協議会が中心になって「SDGsバンブープロジェクト推進フォーラム」を発足させた。

フォーラムでは、放置竹林の竹を利用したメンマや竹ぬか床の製造のノウハウを持つアプレに協力を求め、各地で講習会などを開く。合言葉は「竹を食べて使って里山保全」だ。

同協議会事務局長でフォーラムの代表も務める山村公人さん(56)によると、竹ぬか床は粉状の竹が余分な水分を吸収するため、臭いを抑えることができ、水分がたまらないようにかき混ぜる手間も省ける。

20年8月からはフォーラムが中心となり、八女市の「道の駅たちばな」の関係者らを対象にメンマ作りのオンライン講習や、嘉麻市の住民らに竹ぬか床をPRする教室などを展開している。

同市観光まちづくり協会事務局長の有田芳行さん(69)は、市内で開かれた竹ぬか床活用法を学ぶ教室に携わった。牛肉を竹ぬか床で漬けてみたといい、「味がいい上に放置竹林も解消できるので、ぜひ家庭にも浸透させたい」と手応えを語る。

フォーラムではこうした経験を踏まえ、今年からメンマや竹ぬか床の利用拡大を目指す。久留米市内のラーメン店や酒蔵でのメンマの提供や、道の駅の出品者に向けた竹ぬか床の勉強会を計画。さらに、道の駅で売れ残った野菜などを竹ぬか床で漬けた商品も企画し、食品ロスの削減にも手を広げる予定だ。

「竹害の解消は環境保全につながり、都市部に住む人の水資源なども守れる。全国に取り組みが広がってほしい」と山村さん。「放置された竹林を減らすため、これからも竹を有効活用するアイデアを出し続ける」と意欲を見せる。

（森永健太、おわり）

「竹による害は多くの人の生活につながる問題」と語る山村さん

Goal 6 安全な水とトイレを世界中に 8 働きがいも経済成長も 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう

https://epo-kyushu.jp/epo-topix/interview/2586-2021-11-16-07-54-39.html

EPO九州

EPO九州の取組 NEWS EPO九州について お問合せ メールマガジン 九州ESD

インタビュー 2021年11月

EPO九州インタビュー：

いいね！5 シェアする ツイート

これまで九州地方環境パートナーシップ

ートナーシップを基礎とした中間支援を

回はその中から、「令和元年度環境で地

、一般社団法人 九州循環共生協議会の

ご参考

10月 27 Beyondミーティング×地域循環共生圏フォーラム2021特別版

イベントは終了です (水) 15:20 | オンライン | By Beyondミーティング

一般社団法人九州循環共生協議会 - ローカルSDGs（環境コンサルタント）

https://local-sdgs.wixsite.com/q-junkan

環境省ローカルSDGs -地域循環共生圏づくり プラットフォーム-｜ 活動団体（令和元年度採択団体）の紹介 - つながる

http://chiikijunkan.env.go.jp/tsunagaru/chiiki_ichiran_r1/

【山村氏プロフィール】

山村　公人　（やまむら　きみひと）

一般社団法人九州循環共生協議会　理事

CO2排出削減量の算定やカーボンオフセット等の事業から、近年では生物多様性保全に関わる事業が主となってきている。二次的自然の保全の為、地域資源（特に放置竹

2022年08月17日

【10/4締切】水環境文化につい...

in 関連ニュース

日本水環境学会は、水環境の に関する優れた社会・文化活 人・団体に水環境文化賞を贈 ています。自薦・他薦問わず することができますので、水

連絡先

070-5415-2935

eco.yamamura@gmail.com

www.sdgsbamboo.com

17.17

さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

多様な主体の参画がなければ、

全国の竹やぶは［放置されたまま］です。

「パートナーシップ」で取組むこの手法は、
同じく放置されている国内外の諸問題への
アプローチのヒントになるかもしれません。

まずは興味を持っていただければ幸いです。

入会金・年会費など必要？

一切不要です。
プロジェクト参加各位は、任意で活動頂いています。

定期的な会議などは？

ありません。
各々事業としての会議はございます。これも任意です。

取組(SDGs)実現を強いられる？

何らのしばりはございません。
事務局はご要望あるサポートのみ行っております。

いつでも止められる？

もちろんです。
連携が困難な場合はいつでもご連絡ください

分科会のメンバーになりたいんだが・・

ご相談ください。
メンバー企業は、ロゴマークを自由に使って頂けます。